

丹波市

令和
3年度

活躍市民による
まちづくり事業
応援補助金

実績報告集

まちづくり部市民活動課

はじめに

今後益々深刻化する少子高齢化や個人ニーズの多様化、地域コミュニティの希薄化など、本市を取り巻く社会は大きく変化を続けています。このような、多様化するニーズ、複雑化する地域課題に対応するためには、行政だけでなく、地域社会を構成する市民の皆さん、一人ひとりが地域の担い手として力を発揮することが必要です。

市民の皆さんが主体となった市民提案による新たな活動や活動のさらなる拡大を支援します。

1. 補助金の目的

市民の皆さんの提案による、公益的な活動を継続的に実施される団体に対し、その事業費の一部を補助することで、市民が主体となったまちづくりを支援することを目的とします。

2. 補助対象事業（事業内容、事業範囲）

次の項目すべてに当てはまる事業

- ① 新規事業であり、3年以上継続する見込みのある事業
- ② 既存事業に新たな取り組みを加えた事業（新たな取り組み部分だけが補助対象）
- ③ 丹波市の社会的、地域的な課題解決のための事業や地域の活性化につながる事業
- ④ 小学校区以上の地域を対象とした事業 ※青垣地域は旧小学校区とします。

3. 補助対象団体

次の項目すべてに当てはまる団体

- ① 市内に本拠地を置き、主として市内を対象に活動している団体
- ② 規約や会計を定めている団体
- ③ 非営利団体

4. 補助金の種類

■提案補助金

補 助 率 補助対象経費の3分の2以内（千円未満切捨）

上 限 額 30万円

審査方法 公開審査

補助限度 初回から3年まで

■応援補助金

補 助 率 補助対象経費の3分の2以内（千円未満切捨）

上 限 額 5万円

審査方法 書類審査

補助限度 1回のみ

5. 補助対象経費

- ・謝金、講師旅費、消耗品費、印刷広告費、通信運搬費、保険料、委託料、使用料 など

◆令和3年度実績

【 交付団体 】 13団体(うち3団体が新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業中止)

【交付決定額】 3,163,000 円

【交付確定額】 1,933,000 円

◆令和3年度交付団体一覧

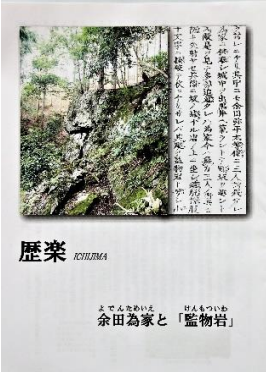
No.	団体名	事業名
1	あおがきdeあそび隊	あおがきdeあそび隊
2	たんば・ベトナム交流促進委員会	たんば・ベトナム交流促進事業
3	市島町史実研究会	「歴楽 ICHIJIMA」の事業推進
4	「注文をまちがえる喫茶店」in丹波 企画実行委員会	注文をまちがえる喫茶店「カフェだんない」事業
5	現場音楽研究会 丹波支部	丹波市健康長寿日本一を目指して～介護予防・ 認知症予防に向けての講演会、セミナー～
6	スポーツクラブ21氷上東	みんなでたのしいまちづくりをしよう
7	氷上郷土史研究会	丹波市のゆたかな歴史を知ろう！
8	たんばDE第九実行委員会	30人の第九 演奏会
9	一般社団法人SSKT	子どものための学校における発達支援のア プローチとは？
10	佐治菜園サークル	佐治菜園サークル日曜朝市

◆新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業中止となった団体一覧

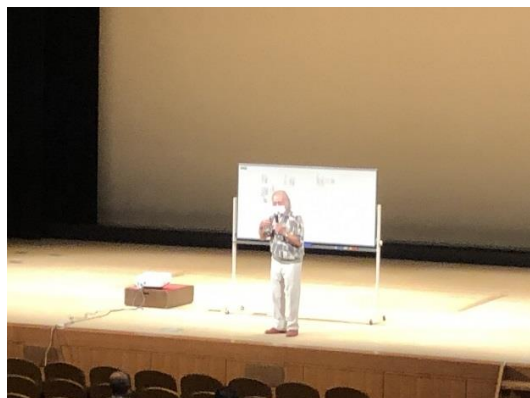
No.	団体名	事業名
1	丹波フォトラリー実行委員会	第1回ふるさと丹波フォトラリー in KASUGA
2	タンバックスフェスティバル実行委員会	タンバックスフェスティバル
3	久下自治振興会 文化祭実行委員会	久下の里ひろば 第3回 文化祭

No.	1	実施団体名	あおがきdeあそび隊		区分	提案補助金
事業名称	あおがきdeあそび隊					
事業費	106,718円	補助金確定額	71,000円	実施場所	丹波市内	
事業目的	生活の延長にある自然と遊ぶことにより、子どもたちの生きる力を育み、地域とのつながりを作っていく。					
事業内容	春散歩・コケ玉作り・宝来山散歩・川遊び・たき火・飯盒炊飯 登山（乳の木さん）・クリスマスパーティー					
事業の成果 感想等	・子どもたちが生活の延長にある自然と遊ぶことによって、生きる力を育むことの手助けができたらと思い、補助金を活用させていただき、あおがきdeあそび隊の活動をスタートした。青垣地域の自然を利用して遊ぶことはとても楽しいことであると同時にとても危険なことであるということを再確認した。 ・1歳から上は高校生のボランティアでお手伝いに来てくれた子まで、幅広い年齢の子供たちと遊ぶことができた。ただ、スタッフの手や目が行き届いていない部分があったので、来年度からはフリーで動けるスタッフを配置し、より安心安全に自然の中で遊べるようにしたいと思う。また、保護者も巻き込んで大人も子供も一緒に楽しめるようなプログラム作りをしていきたいと考えている。 ・突然のお願いにも関わらず、各自治協議会の方々も快く場所を提供してくださり、大変感謝している。ただ、残念だったのは、子どもたち同士は年齢を超え交流する機会を得たが、大人の輪が思ったよりも広がらず、地域の方々ともっと交流する場の提供ができたのではないかとというのが、今後の課題の一つである。 今後も活動していけるように、色んな人々との関係作りを頑張っていきたい。					
参加人数	大人 中学生	10人 1人	高校生 小学生以下	合計 28人		
事業写真	  ①春散歩の状況 ②川遊びの状況 ③たき火・ 飯盒炊飯の状況 ④宝来山散歩の状況					

No.	2	実施団体名	たんば・ベトナム 交流促進委員会		区分	提案補助金
事業名称	たんば・ベトナム交流促進					
事業費	432,610円	補助金確定額	273,000円	実施場所	丹波市内	
事業目的	1. ベトナム人の方にベトナム語での情報を提供し、丹波市での生活に馴染んでいただき、地域の住民やイベント等に参加できる機会を促進する。 2. 1年目の計画として、ベトナムの民族衣装「アオザイ」を着てダンスをするイベントを企画する。 3. 若者を対象とした「ダンスチーム」を結成して、若者間の交流を図る。(Hip Hop, Shuffle Danceなど)					
事業内容	1. FM805たんばにて、週2回定時放送枠にて公的機関からの情報をベトナム語で、また活動促進情報を日本語で1回に1時間の放送を実施した。 2. 新型コロナ感染拡大により、緊急事態宣言や自粛を求められたので、企画したイベントは殆ど実施できなかったが唯一12月30日にゆめタウンポップアップホールで約4時間実施した。 3. 連絡や練習用の模範などは、YouTubeやzoomを活用して行った。					
事業の成果 感想等	ベトナム語放送は、順調に軌道に乗り滞りなく実施できた。 ただ、イベント実施は年末の1回だけであった。 イベントは年末に1回だけ実施し、地元で活動されておられる方々も一緒に参加いただいた。しかし、集合して交流することが困難であったために、各自の活動紹介をして、お互いの活動を知っていただいたのは良かったが、交流としては満足いくものとはいかなかった。					
参加人数	大人	27人	高校生	10人	合計	114人
	中学生	5人	小学生以下	2人		
事業写真						
	模範ダンス撮影の状況			ベトナム語録音風景		
						
	イベントPOPUPホール			イベント・アオザイダンス		

No.	3	実施団体名	市島町史実研究会		区分	提案補助金
事業名称	「歴楽 ICHIJIMA」の事業推進＜2年目＞					
事業費	184,800円	補助金確定額	101,000円		実施場所	丹波市内
事業目的	年5回の「歴楽 ICHIJIMA」を開催し、身近にある歴史を“地域歴史遺産”として共有化し、郷土愛を育み、地域活性化の原動力となる役割を果たしていきたい。					
事業内容	地域史研究家の山内順子氏をメイン講師兼総合プロデューサーとして招聘し、永久保存版となるカラーテキスト、パワーポイントや現物資料展示の活用等で楽しく分かり易い講座を実施。					
事業の成果感想等	コロナ禍で年5回の予定が4回となり（2/12は中止）、お茶やお菓子で語り合う時間（カフェタイム）も設定できなかった。 そんな中で、参加者は3/19（33名）、8/21（40名）、10/16（39名）と推移したが、12/18は24名と雪の影響で足を奪われるなど外部要因に悩まされた一年だった。 地域愛好家のコア層は着実に育っているが、自分の地域以外にまで関心を広げようという潜在層の掘り起こしは不十分。					
参加人数	大人	136	高校生	合計 136		
	中学生		小学生以下			
事業写真						
	「歴楽テキスト」					
	 歴楽 ICHIJIMA よでんためい だんまのいわ 余田為家と「監物岩」 6/19  歴楽 ICHIJIMA 上竹田文書に見る 水害と治水工事の記録 8/21  歴楽 ICHIJIMA 丹波市市島町上堰 あまごじんの 愛宕神社の木製獅子狛犬 10/16  歴楽 ICHIJIMA 丹波地域の「蓬莱山麓」と 宮中行事のかかわりを探る 12/18					

No.	4	実施団体名	「注文をまちがえる喫茶店 in丹波」企画実行委員会		区分	提案補助金
事業名称	注文をまちがえる喫茶店「カフェだんない」事業					
事業費	108,745円	補助金確定額	72,000円	実施場所	柏原町 山カフェ	
事業目的	認知症当事者の方々がスタッフとして参加されるカフェの開催を通して認知症への理解や出会いの裾野を地域に広げていこうとする活動。コロナ禍下、開催中止が続いたが、2021年度には試行的なテイクアウト型で開催し、再開を望む多くの声に応えようと考えた。					
事業内容	年度5回の開催を準備したが、緊急事態宣言等と重なり、結果、2021年10月、11月の計2回、試行的ながらテイクアウト型でカフェが再開できた。ご家族への事後フォローや住民自治組織との連携なども従来通り継続し活動の裾野を広げてきた。					
事業の成果 感想等	コロナ禍下でのカフェ開催の難しさを痛感しつつも、試行的に2回、テイクアウト型で再開ができたことで、「孤立」が進む地域に居場所や参加の機会を創ることの大切さを改めて実感している。2021年度は参加方法の幅を広げた為、新たに2名の当事者の活動参加を得たことも大きな成果だ。この他、地域に根差した活動スタイルや新聞記事での広報展開なども継続できた。これら成果を踏まえ、引き続きコロナ禍下、今後も粘り強くカフェ開催を模索していく。					
参加人数	大人 中学生		高校生 小学生以下		合計	約100人
事業写真						
	リハーサルでの再開に向けた準備作業			再開カフェのスタッフ集合写真		
事業写真						
	再開カフェでの風景			ケアマネさんの会議で協力依頼		

No.	5	実施団体名	現場音楽研究会		区分	提案補助金	
事業名称	丹波市健康寿命日本一を目指して～介護予防・認知症予防に向けての講演会セミナー～						
事業費	779,321円	補助金確定額	300,000円		実施場所	丹波市内	
事業目的	・市民の健康意識の向上 ・対面や訪問あるいはオンラインで、音楽療法士だけでなく、地域のボランティアや対話者、医療従事者、教育・福祉従事者に発信する。（一方的ではなく双方向の働きかけを行う。）						
事業内容	・精神科医の松井紀和氏の講演会に引き続き、本氏をシンポジストにおき、医療・行政・福祉・芸術のスペシャリストを招いてシンポジウムを行った。 ・音楽療法の実践講演会も実施した。						
事業の成果感想等	松井氏の講演会では、93歳という立場から『古い』ということの実際をリアルティな側面で話していただき、当日参加の会場内の高齢者からも「そうだ！そうだ！」という声が上がった。シンポジウムではシンポジスト、話題提供者たちが高齢者に謝罪をする場面もあり、丹波市の高齢者たちの参加度、健康意識の高さが見受けられた。舞台にいる側と客席とが一体となり、とても活気高いシンポジウムとなった。						
参加人数	大人	86人	高校生	人	合計	111人	
	中学生	人	スタッフ	25人			
事業写真							
	チキンハートクラブによるコンサート			里博文氏			
				シンポジウムの様子			

No.	6	実施団体名	スポーツクラブ21氷上東		区分	提案補助金
事業名称	みんなでたのしいまちづくりをしよう					
事業費	574,706円	補助金確定額	300,000円		実施場所	丹波市内
事業目的	・多くの人の関わりやすいまちづくりをすすめる。 ・若い人も年配の人も女性も子供もいっしょに考えるまちをつくる。 ・地域づくり、自分の好きなことを広げるグループ・サークルづくりをする。					
事業内容	【自分の趣味を広げる・楽しみながら地域を知るグループづくり】 登山、習字グループの活動を主にすすめた。 【地域づくり参加グループづくり】 若者グループの活動により「生郷まちの灯りフェスティバル」の開催や、工作教室などを実施した。					
事業の成果 感想等	本事業を活用して、地域に住む若い人が地域のことを考える契機となった。これまでになかった取り組みとして「生郷まちの灯りフェスティバル」を継続して実施することができ、今後も継続して活動していこうと考えてくれている。自分たちの趣味を楽しむグループ作りも2グループが継続した活動を始めた。来年度以降もこの取り組みは継続して行い、地域の活性化につなげていきたいと思う。					
参加人数	大人	383人	高校生	15人	合計	848人
	中学生	41人	小学生以下	409人		
事業写真						
	生郷まちの灯りフェスティバル		リースづくり教室			
						
	お菓子作り教室		山登りグループ活動			

No.	7	実施団体名	氷上郷土史研究会		区分	提案補助金	
事業名称	「丹波市のゆたかな歴史を知ろう！」						
事業費	331,730円	補助金確定額	201,000円		実施場所	丹波市内	
事業目的	1. 埋蔵古資料・史蹟に文化財としての価値と役割を付加し、一般市民に公開して郷土愛の醸成に資する。 2. 共に学ぶことで会員の生涯学習と健康長寿を目指す。						
事業内容	1. 発見資料の展示公開 ・丹波市文化財課の支援の下、旧柏原藩邸において12日間実施 2. 会誌「氷上」の充実 ・第5号を編集・発行した 3. 江戸時代に書かれた地域誌「丹波志」の学習と現代語訳挑戦						
事業の成果感想等	1. 9月14日から26日まで12日間実施し、市内外から延620名(当会把握)の来館があった。文化財課から素晴らしい会場の提供を頂き、当会幹事が連日出役して解説に当たった。多種多様な古文書を愉しんで頂き、埋蔵古文書の保存の大切さも認識頂いた。 2. 困難要素も多い中、当年も無事発行に向け編集も仕上げ段階。 3. 4回に総勢120名が参加(2月末了分20名見込み) 学習中。						
参加人数	大人	391人	高校生		合計	391(1011)人	
	中学生		小学生以下				
	その他	藩邸の古文書展 1011人					
事業写真							
	旧藩邸での展示解説会の状況			会誌2号論考の舞台成松大崎神社			
							
	講演会「加古川の舟運」の状況			円通寺内での襖の裏紙はがし作業			

No.	8	実施団体名	たんばDE第九実行委員会		区分	提案補助金	
事業名称	30人の第九 演奏会						
事業費	1,410,000円	補助金確定額	300,000円		実施場所	丹波の森公苑	
事業目的	丹波の地において、プロのオーケストラを招き、幅広い市民の参加による演奏会を通し、地域の活性化を図る。演奏での活躍場所がない市民や隠れた演奏家を発掘し演奏機会を持ってもらう。未来のたんばの音楽文化を担ってもらう学生に、プロのオーケストラとの協演機会を創り、大きく育てる。 そのためには「第九」演奏会が起爆剤になる。						
事業内容	京阪神で活躍しているプロオーケストラ、アンサンブル神戸の一部のメンバーと指揮者を招き（9人）、丹波市出身（在住）のピアニスト（1人）とソリスト（4人）と共に丹波市民公募の合唱（21人）による、第九演奏会。及びオーケストラメンバーとの選抜学生（3人）協演演奏。						
事業の成果 感想等	600人近い市民が足を運んでくれ、「感動した」「毎年年末に聴きたい」という大きな盛り上がりであった。 当初目的にした、丹波市の隠れた演奏家に感動の演奏機会を与えることができ、今回参加できなかった市民からも「来年は是非合唱に出てみたい」との声が多く寄せられた。 市外からの観客も多く「丹波市はすごい企画を実施していて良いね」との声。丹波の文化の発信ができた。 丹波の演奏家の卵である、小学生、高校生にとっても、初めてのプロオーケストラメンバーとの協演という貴重な体験を積むことができ、その後行われた全国大会のコンクールで優勝する快挙もあった。 当初の目的である、毎年恒例の「丹波の風物詩」としていくことが大事。						
参加人数	大人	約480人	高校生	約20人	合計	約610人	
	中学生	約30人	小学生以下	約30人			
	その他	演奏者 38人、		スタッフ 12人			
事業写真	高校生のピアノ演奏			小学生のピアノ連弾(オケ協演)			
							
	ピアノ協奏曲（多川響子）			「30人の第九」			
							

No.	9	実施団体名	一般社団法人SSKT		区分	提案補助金
事業名称	子どものための学校における発達支援のアプローチとは？					
事業費	514,108円	補助金確定額	183,000円		実施場所	青垣住民センター
事業目的	発達障がいがい広く理解されることが大切であり、発達障がいとはなんなのか、しつけとは違うことが誤解されている。不登校や引きこもりが発達障がいに関連していることの理解や身体が発達すれば心も大きく発達して、発達障がいの特性が目立ちにくく成ることの説明や理解のために、専門の講師に来市いただく。					
事業内容	元特別支援学級の担任の先生による講演会を実施し、学校の先生だけでなく、当事者の保護者、またさまざまな分野の方に知ってもらうことで、発達障がいへの偏見が大きく改善すると考えている。地域が変わり、周りが変われば子どもたちも大きく変わっていくと確信している。					
事業の成果感想等	コロナウィルスの緊急事態宣言下のため、予定していた体育館が使えなかったこと、また市外の方の受け入れを取りやめたことから、参加者は予定の半数に満たなかったが、旧芦田小学校よりさらに広い青垣住民センターを借りれたことにより、蜜を避け安心して講演会を実施することができた。 元支援学校の先生の話は、経験から来る実例が多く、また参加された方々からは今後も毎年期待したいとの声も多く、丹波市の発達支援の幅が大きく広がったのではないかと考えられる。					
参加人数	大人 52人		高校生		合計	60人
	中学生		小学生以下 8人			
事業写真						
	受付の状況			講演会の状況		
						
	質疑応答の状況			終了後の質疑応答		

No.	10	実施団体名	佐治菜園サークル		区分	応援補助金
事業名称	佐治菜園サークル日曜朝市					
事業費	61,679円	補助金確定額	41,000円	実施場所	来楽館	
事業目的	高齢化がすすむ佐治地域において、家庭菜園づくりを通じて地域住民との交流を図り、会員相互の生きがいづくりと住み続けられるまちづくりの実践活動。					
事業内容	・2019年4月発足。 ・来楽館において毎週日曜日、朝8時から10時まで朝市開催。 ・毎月、第4日曜日は佐治倶楽部のキヌイチ開催に併せ、朝8時から12時まで朝市開催。					
事業の成果感想等	・2019年4月の発足から2年が経過し、住民への認知度も高まり利用者も徐々に増えつつある。 ・高齢者の安否確認と併せ、若い人たちとの出会いも増えてきている。					
参加人数	大人 中学生	780人	高校生 会員	22人	合計	802人
事業写真						



【お問合せ先】

丹波市 まちづくり部 市民活動課

兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀1番地

TEL：0795-82-0409

FAX：0795-82-4370